

主催：立命館大学国際言語文化研究所「風景のイメージとその人類学的諸相」研究会

公開講演会

モダニズムによる生活改革と風景の変容 —希望の空間としての「郊外」

田所辰之助（日本大学）



都市の郊外に私生活の場が誕生する。近代社会を画したこの出来事に、建築家たちは当時、どのように向き合おうとしたのか。新たな生活の舞台となる住宅は、はじめいかなるものとしてデザインされたのだろうか。

『英国の住宅』を著したドイツ人建築家ヘルマン・ムテジウス、表現主義の建築家として知られるブルーノ・タウトなどをキーパーソンとして、十九世紀イギリスのドメスティック・リヴァイヴァル運動（住宅復興運動）から、第一次大戦後のドイツにおけるジードルンク（集合住宅）に連なる流れを追っていきたい。ひとびとが住まう新たな場、その改革を求めた社会の誘導因はいったい何だったのか。

住宅建築の変革は、同時に郊外に新たな風景をもたらした。だがその風景は、なにを起源としたものだったのか。モダニズムを推進しようとした建築家たちにとって、郊外は希望の空間にほかならなかった。そこに重ねあわされた風景の原像を読み解いていきたい。



2015年7月9日（木）16時30分～18時

立命館大学衣笠キャンパス 学而館第3研究会室

《参加無料、事前申し込み不要》

◆お問い合わせ◆

「風景のイメージとその人類学的諸相」研究会事務局（立命館大学国際言語文化研究所内）

TEL: 075-465-8164 E-MAIL: lndscp21@st.ritsumeit.ac.jp